

あわいの視点  
第2回名古屋芸術大学展 卒業・修了制作選抜

2020年10月31日[土]ー11月14日[土]

開館時間: 西キャンパス会場 Art & Design Center West  
12:15-18:00 愛知県北名古屋市徳重西沼 65 番地

東キャンパス会場 Art & Design Center East  
11:00-17:00 愛知県北名古屋市熊野庄古井 281 番地

休館日: 会期中無休/入場無料  
会場: 名古屋芸術大学  
主催: 名古屋芸術大学

名古屋芸術大学展は昨年よりスタートさせ、創立50周年を迎える本年、第2回展を迎えることとなりました。開催する目的は、名古屋芸術大学の社会におけるアクティビティを最大限に開示することです。卒業・修了後、5年~10年を経て社会で活躍するようになった若手のアーティストやデザイナー、及び去る2月に本学キャンパスで開催された卒業・修了制作展において優秀な成績を修めた作品を一堂に集め、展覧するものです。さて節目となる本年は、当初4月に開催を予定しておりましたが、新型コロナウイルスの影響を受け、この度会場を本学へ移動させ卒業・修了制作展の選抜作品のみとし、開催をする運びとなりました。主となる表現領域に軸を持ちつつ、素材やジャンルを超え、あわいの視点で表現を追求するアートとデザインの10名の卒業・修了生によって構成されます。

本学では、これからはOB・OGの活躍を支えていきたいと考えております。今後の社会を担っていくアート・デザインの若い開拓者たちの成果を心ゆくまでご覧ください。 学長 竹本義明



2020年10月31日[土]より名古屋芸術大学東キャンパスにてギャラリー&交流テラスを新設致します。

名称: Art & Design Center East  
住所: 愛知県北名古屋市熊野庄古井281番地  
会館時間: 11:00-17:00  
休館日: 日曜日/入場無料



交流テラス(イメージ)

西 Campus Art&Design Center West

Open 12:15-18:00(最終日は17:00まで)日曜休館 入場無料 どなたでもご覧いただけます。スケジュールは変更になる場合がありますので、ご確認ください。大学行事のため、日曜以外も休館する場合があります。

- 9/25 画 → 9/30 画 アークリ博覧会
- 10/ 2 画 → 10/ 7 画 日本画3年コース展/2020彫刻クラス展
- 10/ 9 画 → 10/14 画 同時代表現研究展
- 10/16 画 → 10/21 画 レビュー選抜展
- 10/31 画 → 11/14 画 あわいの視点 第2回名古屋芸術大学展 卒業・修了制作選抜
- 11/20 画 → 11/25 画 書道アート展8/スタジオ展/[工芸から]グリーンシティプロジェクト
- 12/11 画 → 12/16 画 助手展/木のデザイン
- 12/18 画 → 12/23 画 洋画コース2.3年生選抜
- 1/ 8 画 → 1/13 画 工芸展(陶・ガラス)
- 1/15 画 → 1/20 画 「芸術教養レビュー」第3回展
- 2/19 画 → 2/28 画 卒業・修了制作展

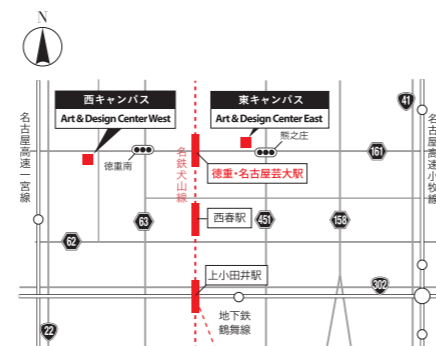
東 Campus Art&Design Center East

Open 11:00-17:00 日曜休館 入場無料 どなたでもご覧いただけます。スケジュールは変更になる場合がありますので、ご確認ください。大学行事のため、日曜以外も休館する場合があります。

- 10/31 画 → 11/14 画 あわいの視点 第2回名古屋芸術大学展 卒業・修了制作選抜
- 11/19 画 → 12/ 9 画 アラムナイコレクション展
- 12/11 画 → 12/16 画 助手展
- 1/11 画 → 1/23 画 芸術教養領域卒業研究展
- 1/25 画 → 1/30 画 芸術教養領域レビュー展

編集後記

タガメの体液について  
以前から気になっていた事というか知っていた事で、タガメの体液は洋なしと似たような味と言われている。なので基本的には水に混ぜ成分を楽しむのが適しているらしく、ポカリスエットならぬタガメスウェットという飲み物が都内のそういった特殊なフェスで販売されていたのを思い出した。(健全なイベント) 昆虫は見た目と味がリンクしない事が多い。 市川 岳志(アート&デザインセンター)



最寄りの交通機関をご利用の場合  
名鉄大山線(地下鉄鶴舞線乗り入れ)徳重-名古屋芸術大駅下  
車西キャンパスは 西へ約1,000m徒歩 13分  
東キャンパスは 東へ約600m徒歩 8分

名古屋芸術大学 Art & Design Center

〒481-8535 愛知県北名古屋市徳重西沼65番地 TEL[0568]24-2897 FAX[0568]48-0173

Ble Vol.53  
発行日 2020年10月9日

編集・発行 名古屋芸術大学アート&デザインセンター  
〒481-8535 愛知県北名古屋市徳重西沼65番地 E-mail adc@nua.ac.jp URL http://www.nua.ac.jp  
2018 Printed in Japan © Art & Design Center, Nagoya University of the Arts デザイン/印刷 サンメッセ株式会社

53



ネットで魅せる  
アートの世界

近年、世の中の流れと共に人々に浸透しつつあるオンライン化。アートの世界においても、インターネット上で自身の作品を世の中に拡散、発信していく選択肢が生まれ、アーティストたちが表現する舞台は変革の時を迎えています。

そこで今回は、株式会社The Chain Museumが手掛けるSNSでアーティストたちの活動の場を提供しているアプリ「ArtSticker」について、制作側の想いと現在「ArtSticker」に登録し、最前線でご活躍されているアーティストの方々を特集しました。

Art Sticker™  
できること

国内外、様々なジャンルの作品と  
出会えて、くわしい情報も見られます。  
キーワードで検索して探すこともできます。

あなたの心を動かす  
作品に出会える

アーティストを支援し  
感想を直接伝えられる

金額に応じた色の「スティッカー」を好きな作品に  
貼ることで、アーティストを直接・気軽に支援できます。  
あなたの感想に、アーティスト本人から  
返事が届くことも!?

イベントや展覧会の  
チケットが買える

気になったイベントや展示会の  
チケットも、その場でオンライン購入。  
アプリをひらいてQRコードを提示する  
だけで、すぐ入場できます。

作品を購入して、アーティストを  
支援することもできます。  
お気に入りの作品を、  
ぜひあなたのお手元に。

気になった作品の  
購入もできる



音声ガイドも  
この中に

美術館・博物館・ギャラリーや芸術祭などで、  
あなたのスマホから音声ガイドを聴くことができます。  
作品に込められた物語や作者の思いとともに作品を  
巡っていただくことで、より理解を深めていただく  
ことができます。

## ArtStickerに 込められた想い

The Chain Museum(TCM)とArtSticker(AS)は、アーティストが世界と直接つながるための、現代アートのプラットフォームです。

TCMというリアルとASというネット上の双方それぞれにてアーティストは作品を発表することができます。来訪者はそれらを通じて作品と出会い、作家を知り、コミュニケーションして、支援やECでの購入もできます。

つまりTCM/ASは、作家にとっての無償で使用できる場です。だがしかし、それは場でしかありません。それを活かすのは作家自身のアイデアと意識と行動です。TCM/ASは、かつて教会の壁や、キャンバス、テンペラ、油絵具、ノミやブロンズなどのようにメディウムや支持体であり、そして洞窟や教会、ミュージアムやギャラリーです。それらを活かすのは作家次第。

「作品が全てだが、作品以外の全ても大事」とも思っています。作家がどうして作家になったか、コンテキスト、展示するという、来訪者とのコミュニケーション、もし作品を買ってくださったらありがとうの一言も直接言ったら良い、そして次の作品に向けての気付き、情熱、どんな自分になりたいのか、そんな作品以外の全ても大事で、我々来訪者は、むしろそんなことから作品や作家に興味を持つ、それが作家が現存する現代アートの醍醐味であり、若き作家の美味しい特権だと思います。

私も若き良い作家に出会い、その成長を自らと重ねながら互いに抜きつ抜かれつ拡張したい。

ああ、現代アートは、たのしい。

株式会社The Chain Museum  
代表取締役社長 遠山正道



## アーティストにとっての ArtStickerとは

ハシグチ リンタロウ WLIGHTE/書家  
Lintalow HASHIGUCHI



藤田 淑子 芸術家  
Yoshiko FUJITA



僕が現在取り組んでいるシリーズ「WLIGHTER DESCENDENTS」(=書き、灯す人々の末裔)は、「1000年後も人々は何かを書くという行為をしているのだろうか」という問いから起こったものです。これだけ様々なものの変化が目まぐるしい時代の中で未来を予見することは難しい。

でも、きっとなんらかの形で、たとえそれが今の自分たちの価値観、形態とだいぶ違ったとしても、ずっと後の世代のKidsたちが、どこかで面白おかしく生きていることだろうと思います。

生まれ、生き、やがて死ぬ有限性の中で、遠い昔の人びとが発明した、文字や言葉。その力・不思議さ・面白さに着目し、この現在地から異なる時空間へアクセスを試みる。それが本シリーズのCOREにあります。

いまARTファンの中で注目を集めている「ArtSticker」もまた、芸術を通して出会う人びとの間に起こる、持続可能な拡張的な可能性を秘めていると思います。まだ創設から一年半でありながら、大御所からローファイな学生アーティストまで、玉石混淆のラインナップが、次々に新着としてタイムラインに上がり、そこには言わばデジタル式の投げ銭舞台が設けられています。また最近ではThe Chain Museumと連動し、新たなアプローチや仕掛けを日々開拓している様子が窺えます。

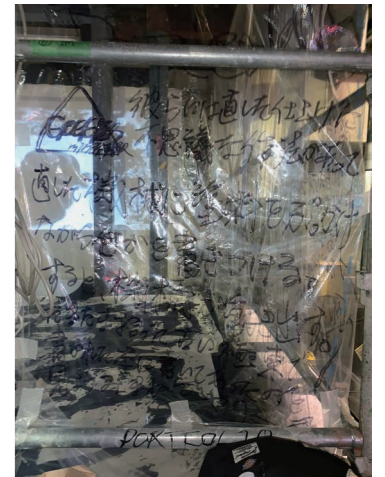
さまざまなArtStickerのアクションから見ると、創る者と観る者の境界に新たな融解地点をつくり、「よりよく生きるにはどうしたら良いのか?」という問いへの、アクティブな集合知としてのアクセスポイントを構築しようとしていることです。(この問いはありふれているようで、軽んじることはできない)

それに付随してお伝えしたいのは、「stickerに添えられた一言にもチカラがある」ということです。これは支援をいただいている側/アシストする側の両方で参加している実感から思うことです。個人個人の経済力にはかなり差があり、その中でsticker(投げ銭)を投じて下さることは額の大小に関わらず大変励みになっています。同時に、そこに添えられる一言もまた作者に勇気と新たな閃きの示唆を与えているということをお伝えするとともに、この場を借りて、これまで支援をくださった皆様へ深く御礼を申し上げます。

またどこかで新作をご覧いただけるよう、今後とも新たなアイデアを育てながら日々表現活動に取り組んでいきます。そしてユーザーの皆さんの眼と嗅覚によって、新たな無名の才能が発掘されることを願っています。



「WLIGHTERSの謎の本(断簡)《monk, SEWAGE Treatment Facility on his back》」  
サイズ:??x??cm 素材:コンビニコピー機プリント、Amazonのハコ、水性顔料  
制作年:??20年



Artist's Fair Kyoto2020 インスタレーション

「作品が売れた時、売却済みの小さな丸いシールが貼られると嬉しくなるよね」ある日、The Chain Museumの遠山正道さんが、こんなことを言いました。

たしかに、そうかも！シールが壁にベタリと貼られるアナログの感覚と、気軽なネット上のやり取りがパズルのピースがはまるように私の頭の中でぴったりとくっ付いた瞬間でした。

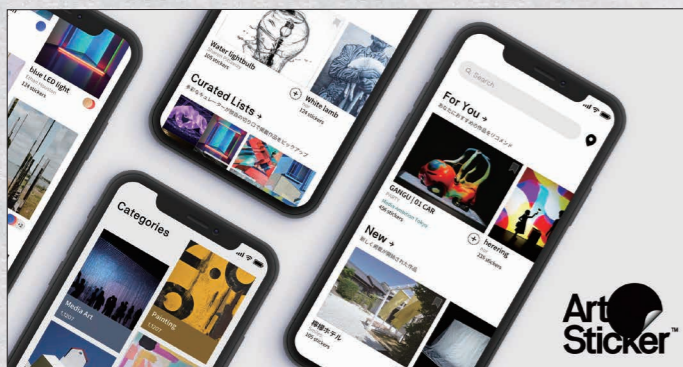
私は主に、カーテンで顔の覆われている人々を描いています。私自身は、本来は外向的な性格ではないのですが、何か新しいことにチャレンジしてみたいという気持ちだけはいつも強く持っています。今ではArtStickerは、私のそんな気持ちを後押ししてくれる存在となっています。

先日、ArtSticker上でオンライン個展を開催しました。企画を練っていくうちに「ここにしかない価値を実現しよう」と思うようになりました。作品のページは、登録さえ済ませれば情報を自由に更新することが可能になります。私はこの機能を利用して、最終的には「作品ページの情報が日に日に増えていく個展」にしてみました。

この媒体は、この先も様々な持ち味のアーティストとともに大きく成長し続けていくと私は思います。



「Girl with bobbed hair」  
サイズ: H74cmxW89cm 素材:キャンバスにアクリル絵具  
制作年:2019年



ArtSticker 株式会社The Chain Museum  
東京都目黒区中目黒一丁目10番23号

<https://artsticker.app/r/dl>  
ダウンロードはこちらから↓

▼「ArtSticker」iOS版

<https://apps.apple.com/app/artsticker/id146438049>



▼「ArtSticker」Android版

<https://play.google.com/store/apps/details?id=art.tcm.artsticker>



Information



トーキョーアーツアンドスペース  
プログラム・ディレクター

近藤 由紀  
Yuki KONDO



トーキョーアーツアンドスペース本郷外観

## 第28話 人間の複雑さが生む作品の魅力

中学に上がるころから、どうにもならないことを悶々と考えることが増えた。今なら「中二病」というのかもしれない。その息苦しさを一時忘れさせたものの一つが芸術作品だった。そこで起こっていることを子供ながらに感受しようと頭も体もフル回転させる時間は、非日常の時間を与えてくれた。それは、いつも澄んだ空を引き連れ、心を整えてくれた。

美術史や美学を学んで知ったのは、作品の背後にびっしりと編み込まれた時代と作家が生きるために必要だった思考であった。名作になればなるほど無数の解釈と受容を許すそれは、研ぎ澄まされた知性であり理性であり、野性であり感性であった。なんということだ、ここでは人間と世界についてのあらゆることが思考されている。そして、そんな複雑さを抱えながらも直截的に子供の心に澄んだ空を与えることもできる。そんな表面の不思議な構造と内側の深遠さを併せ持つ「作品」に心惹かれて今に至る。

とはいえ、作家が生み出したすべての作品がそうなるとは限らない。また人により、時代により、その評価は一定ではない。ゆえに同時代の作品に対する同時代の「評価」は泡のようにも見える。だが泡がもたらす誘惑と嫉妬に抗いながら、あるいはものともせず、世界を直視しようとする作家たちが今なお生み出し続けている作品とその格闘を、「美しい」と思っている。

により、その評価は一定ではない。ゆえに同時代の作品に対する同時代の「評価」は泡のようにも見える。だが泡がもたらす誘惑と嫉妬に抗いながら、あるいはものともせず、世界を直視しようとする作家たちが今なお生み出し続けている作品とその格闘を、「美しい」と思っている。